



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

学報

2012.3.20 Vol. **131**

三蔵五訓

真理を探究し、道理を实践する。
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。
生命を尊重し、自然を畏敬する。
個性を伸展し、紐帯性を培う。
未来を志向し、可能性に挑む。



特集

祝 卒業

学位記授与式 学長式辞	1
理事長 挨拶	2
福山大学のシンボルマークが決定	3
学生表彰	3
訃報	3



ACCREDITED
2007. 4 ~ 2014. 3



自信と希望、 そして他者のために

平成23年度 学位記授与式 学長式辞

福山大学 学長 松田 文子

皆さん、ご卒業おめでとうございます。在学中にはたくさんの方を学び、経験し、多くの人間関係を築かれたことと思います。それらを糧として、社会に出た皆さんが大きく花開かれることを、ここから期待しています。そしてご臨席いただいておりますご家族の皆様、本日は誠にありがとうございます。ご家族の皆様の長きにわたる物心両面でのご支援にここから感謝申し上げます。

さて、先ほどはご卒業おめでとうございます、と申し上げましたが、昨年は、東日本大震災、福島第一原発事故、あるいは台風12号による集中豪雨と土砂災害等々により、多くの人命が失われ、当たり前に行っていた日常生活が奪われ、本来なら卒業式を迎えるはずの少なからぬ若者、家族、教師にとって、それが不可能になってしまっています。私達は、今こうして卒業式を滞りなく行い、それを祝うことができると言うことを感謝すると同時に、その意味を、あらためて考える必要があるように思います。

17・8世紀以降の科学と技術のめざましい進歩は、文明爆発とも言うべき状況をもたらし、21世紀に入っても、ますますそのスピードを増していました。より物質的に豊かに、より便利に、より効率よく、とのキーワードに酔いしれる、あるいは追い立てられているときの、東日本大震災と原発事故ではなかったでしょうか。幸いにして直接的な被害に遭

わなかった私達も含め、多くの日本人が、現代社会のあり方を見つめ直したのではないのでしょうか。以来、巷では文明転換論や脱近代化論も喧しい状況が1年続いています。いまだ、日本の国全体が、震災のダメージから立ち直れないでいるうえに、世界もまた経済的・社会的に大変不安定で危険な崖の上にいるかのようなのです。

このような時期に、大学を卒業する皆さんは、いかに生きるべきなのでしょう。大学教育の成果はどのように生かされるべきなのでしょう。科学・技術を嫌って文明社会と決別し、原始社会に戻ることは不可能でしょう。しかし、もっと人間味あふれる、人と人とのつながりを大切にしたい文明社会を作ることではできません。本学で身につけた専門的知識や技能、そして豊かで強靱な人間力が、今こそ生かせるべきなのです。

実社会に出たとき、自分の力不足による失敗、周りの人々の失敗の影響、自分達ではいかんともしがたいような大きな天災・人災による行き詰まり、等々、リスクな場面に遭遇することは、避けがたいことです。そのとき、大学で学んだことがそのまま生かされた、と感じることは、それほど多くはないかもしれません。しかし、実は、どれくらい素早くたくましく回復できるか、あるいは新しい道を見つけられるか、この回復力を私の専門の心理学ではレジリエンスとい

いますが、このレジリエンスの源は、自分自身に対する信頼であり、将来への希望です。今皆さんが大学教育の成果として手にしている自信と希望こそ、皆さんの宝です。ですから、皆さんは、この宝の輝きがだんだんと衰えていく、ということのないように、さらに輝きを増すようにする必要があります。そのために必要なことは、学んだ知識と技能を、自分のためだけに使おうとするのではなく、仲間のため、家族のため、地域のため、知らない人々のため、社会のために使おうとする態度です。このことこそ、昨年の大震災から、私達が学ばなければならないことだと思えます。この態度も、実は、福山大学の教育理念である「人間性を尊重した調和的な全人格陶冶を目指す全人教育」の中で、いろいろな形で身につけていることを再確認し、この態度を堅持し、志として更に強めていく中で、自信と希望が一層輝きを増すことを、これからの人生の中で実感して頂きたいと思えます。

卒業生のみなさん、福山大学で学んだことを自信と誇りとして、社会に出てたとえ失敗しても、希望を失うことなく、自分の人生の充実とともに他者あるいは社会への貢献を目指してください。心から期待しています。

では皆さんのこれからのご活躍をここから願って、式辞を終わります。

平成24年3月20日



自分たちの世代が 日本を変えていきたい

学校法人 福山大学 理事長 清水 厚實

本日の佳き日に福山大学平成23年度卒業生のための式典が盛大に挙行されることになり心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さん、本当によく頑張りましたね。本日ご出席の保護者の皆さん、そして、皆さんを大切に育て、指導して下さった教職員の皆さまも、ご卒業を心から祝福しております。とりわけ保護者の皆さまには、大切な宝ものであるお子様が、立派な成人となり、それぞれ目ざした教育目標を達成したわけですから、その努力を高く評価し、その前途を一層強く見守ってほしいと思います。

さて、皆さんの在学中には、リーマンショックや政変などいろいろありましたが、とりわけ大きな事件としては、我が国の歴史上開闢以来の大惨事となった東日本大震災がありました。地震、津波、原子力発電の爆発に伴う放射能汚染といった3つの惨事が同時に発生し、国内は勿論、国際的にも大きな反響を呼び起こしました。しかし、その復旧、復興に当たっては、日本人の思いやり、温かい心、強い絆が示され、全国からボランティアが多数参加し、これに協力しました。福山大学の学生もいち早く、東北の現地を訪ね、ボランティア活動を大変熱心に行い、その活動が高く評価され、今でも感謝の言葉やお礼の手紙がたくさん寄せられております。さすが福山大学の学生だと心から感謝と敬意を表するものであります。また、これらの活動については、国際的にも高く評価され、日本人の心、日本人の力強さ、温かさが見直されています。

もともと日本人は世界に誇る木造建築文化として名高い法隆寺を建

立した聖徳太子がAD604年に、「十七条の憲法」を制定し、その第一条において「和をもって貴としとなし、さからうことなきを宗となせ」とし、「和を貴び、謙虚で争いを嫌う精神をもった勤勉で協調性のある優れた民族」になることを強く念願しました。今回の東日本大震災の復旧、復興では、その心が改めて示されたものと深い感銘を覚えるものであります。

いま世間では、若い人たちの考えや行動についていろいろ批判や意見をよせていますが、今年1月10日の成人の日に発表された成人に対する「インターネット調査」によれば、新成人の80%が「自分たちの世代が日本を変えていきたい」と、強い意欲と責任感をもって示しています。調査したインターネット会社の分析によりますと、「不景気による就職難や東日本大震災をきっかけに、若者が真面目に社会と向き合っていこうと真剣に考えているものではないか」と高くその行動を称賛しています。さらに具体的な意見として、「世界にアピールできる立派な国にしたい」「教育や医療に力を入れるべきだ」「個々が努力して社会貢献すれば、日本は必ず変る」と、その意気込みを示しています。

一方、政治や経済については、「日本の未来は暗い」となげいている答えが80%となっており、その理由として、「リーダーシップを取るべき人が将来のビジョンを提示していない」と指摘しています。確かに今の政治情勢などみますと、若い人たちが失望するのも無理はないと率直に思いますが、「自分たちの世代が日本を変えたい」と強い意欲を示していることには、大いに期待できるところであり、本

日の卒業生にもそのことが言えるものと考えています。

卒業生の皆さんは、これから就職に、進学に、あるいは家庭にと、道は分かれると思いますが、圧倒的に多いのが就職だと思います。経団連が会員企業に対して行ったアンケート調査「経団連の求める大学生」によりますと、その第1位は、「論理的思考力や問題解決能力を身につけた者」が76.5%、第2位は、「チームを組んで特定の課題に取り組むことができる者」が45.5%、第3位は、「専門分野の知識を身につけている者」が43.8%となっています。このように、企業の求める人間像がはっきりしていますので、いままで大学で学んだ教育の上にならなくて、さらにこれらの企業の求める人間像に思いをいたし、企業は勿論、国家、社会が求める有為な人材となり、広く社会から尊敬され、信頼される人間に成長してほしいと思います。

最後に、14世紀に観阿弥、世阿弥という不世出の芸術家親子により、世界に誇る伝統文化「能楽」が完成されました。その花伝書の一つに「花鏡」という教本があります。その中に「初心忘るべからず」として、「是非初心」「日日初心」「老後初心」の3つの初心をあげ、日常は勿論、生涯にわたって初心を大切にしよう強調しています。

皆さんも大学に入った時、そして今日の卒業式に当たって考えていること、思っていることを生涯忘れず大切に守り、人間として立派な社会人になるよう祈念し、お祝いの言葉いたします。

平成24年3月20日

福山大学のシンボルマークが決定！



福山大学では、2011年10月11日から11月12日にわたり、本学の教育理念・教育目標を表現し、広く学内外にアピールするためのシンボルマークを公募しました。その結果、全国より1,369点の応募がありました。学内関係者およびプロデザイナーによる厳正な審査の結果、福山大学の新しいシンボルマークとなる最優秀作品が選定されました。このシンボルマークは、さまざまな用途に展開し、福山大学のイメージ確立のために使用していく予定です。

制作者：塩沢益人さん（山梨県甲府市）

制作意図

大学のシンボル「櫻の葉」をモチーフに、それぞれ形の異なる（個性ある）5枚の葉（学部数）が融合する様子をシンボルとして表現しました。

一見して無造作のように配置していますが、活け花のように独創的なバランス、鳥の羽ばたきの様にも見える躍動感を大学の教育理念と合わせ、他校との差別化を図れるデザインにしました。

選定理由

本学の若々しく躍動する校風を良く反映している新鮮なデザインであること、また5枚の葉は本学の教育理念である三蔵五訓に通じることなどから、本作品を最優秀作品と選定しました。

平成23年度学生表彰者一覧(卒業生・修了生)

【学長賞】

部門	学部/研究科	学科/専攻	学年	氏名
社会活動	人間文化学部	人間文化学科	4年	今川 未由希
学業	人間文化学部	心理学科	4年	國橋 孝寛
文化	人間文化学部	メディア情報文化学科	4年	齋藤 千絵
スポーツ	工学部	建築・建設学科	4年	藤井 誠也
	生命工学部	海洋生物科学科	4年	山科 美帆
学業	薬学部	薬学科	6年	西山 卓志
	薬学部	薬学科	6年	守山 十和子
社会活動	人間科学研究科	心理臨床学専攻	2年	皿谷 陽子

足利末男先生のご逝去を悼んで 平成24年2月18日死去 享年94歳

足利先生は、京都大学大学院経済学研究所を修了され、京都大学教授(教養部)を経て、昭和56年に福山大学経済学部(教授)に赴任されました。福山大学では人間科学研究センター長(昭和61年4月～平成4年3月)、図書館長(平成4年～平成5年3月)、経済学部長(平成5年4月～平成7年9月)等を歴任されました。平成8年3月に定年退職され、福山大学名誉教授になりました。平成6年4月にはこれまでの教育研究が高く評価され、勲三等旭日中授章を受章されました。

経済学部長時代には、経営情報学科の福山平成大学への移管後の困難な状況にあった経済学部の再構築に腐心され、国際経済学科の新設に尽力されました。ご退職後も年に2・3回は電話でお話を伺っていましたが、いつも福山大学のことを気にかけていただいていた。改めて、先生の福山大学での活躍を振り返ることにより、誠実で情熱的であった先生のお人柄が偲ばれます。

足利先生のご逝去に対し哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

経済学部 教授 掛江 正造

平成23年度学生表彰者一覧(在学生)

【学長賞】

部門	学部/研究科	学科/専攻	学年	氏名
スポーツ	経済学部	経済学科	2年	廣藤 耕一
				学生会サッカー一部
				学生会硬式野球部
				学生会空手道部

【奨励賞】

部門	学部/研究科	学科/専攻	学年	氏名
社会活動	生命工学部	海洋生物科学科	2年	花岡 誠
学業	薬学研究科	医療薬学専攻	2年	山本 繁史

編集後記

現在の日本は懸命の努力にもかかわらず一年前の東日本大震災から立ち直れないでいます。東北地方の多くの方々が無事な状況の中にあります。しかし同時に、私たち日本人が人と人のつながり、“絆”の大切さについて考え感じたこの一年間だったのではないかと思います。この学報(卒業式号)は、厳しい社会の中に踏み出していく卒業生の方々に、“皆さまには福山大学という絆がある”という思いを伝えたくて編集しました。

発行 福山大学
編集 福山大学広報委員会
〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
TEL(084)936-2111 FAX(084)936-2213

<http://www.fukuyama-u.ac.jp>